

人と復興

震災が実際に起こってから既に4年が経とうとしている中、今回のフィールドスタディを利用して初めて現地に実際に足を運んだ。そこで思ったのは、テレビや新聞などで見て得ていた情報と、実際にそこで見ている光景の間には少なからず溝があることだった。

自分の中のイメージでは未だに震災当時の物が残っているのだろうと想像していたが、あながちそうでもなかった。都市部である石巻市では、区画などが整備されたり新しい建物が建てられていたり、ただその街を歩いている限りではそれなりに復興が進んでいるように見られた。しかし、その中でも空き地だったり震災で残った建物に残されたりした傷跡が見受けられ、当時のことを感じさせられる場所は幾つかあった。次に都市部から離れて、北上町のほうまで行くとまだ人が住むような建物がなかったり、震災当時のままの姿を残していたりする場所も僅かながらにあった。道路などが整備されたり、あちこちで工事が進んでいたりする様子を見ていると少なくとも復興は進んでいるように思えた。だが、都市部と比べてしまうと、取り残されているような気がしないでもなかった。

現地の人からの話を聞けばそれは「復旧」であり「復興」ではなく未だに復興に取り掛かれる段階にない、とのことだった。それは上からの復興であり、下からの復興ではなくそれぞれの地域に合ったような復興が上手くいっていないとおっしゃっていた。聞いたその時の自分ではそれがどういうことなのかということが、字面だけの表面上だけでの理解しかできなかった。言っていることは分かるけれども、実感として身体全体で理解することができなかった。

それを理解できたのは、仮設住宅で被災された方たちのお話を聞いたときだった。北上は、東京のような都会に比べると人の流動性が低い。その結果、その地域で作られる地元の人々のつながりがとても強い。その人々のつながりだけでも、一つの地域として成り立っていると言うこともできる。そういった人々のつながり、それぞれの地域社会に合った復興を進めていくことが下からの復興であると実感することができた。長い年月をかけて築き上げられてきたその地域の形を上手く残しながら、復興を進めていくことが被災した地域にとって一番重要なのだと思った。そう言ったお話をたくさん伺って、もはや誰がどの言葉をおっしゃったか定かではないが、誰かといて誰かと話すだけでも気が楽になるというお話を何度も耳にしたり、肌で感じたりした。言葉で上手く言い表すことはできず、目で見ることもできないけれど、向こうのあの場所にいた人たちからそのようなことを感じることもできた。それもまた、実際に行ってみなければ分からないことなのかもしれない。

それとは逆に、実際にはそれはあくまでも理想にすぎないということも感じた。行政からしてみればより早い復興をすることが最優先となり、住民たちの意見はあまり通らなくなってしまうという状況。そして、同じことを繰り返さないようにするための防災として

の災害危険区域の制定や、高台移転計画などの実施が、本来あった地域の形を破壊してしまっていた。仮設住宅から漁業支援までの道を車で走っているとき、運転してくれていたAさんのお話を聞いている時にそう思った。災害危険区域に指定され、今では辺り一面に草が青々と生い茂る光景が、かつては家々が軒を連ねていた住宅街だったと聞いた時には何とも言えない気持ちになった。何が復興で、何が防災なのかその意味さえよく分からなくなってしまった。

それに対して明確な答えはきっと出せない。今の自分は人と人のつながり、その地域の強さが復興や防災に対してとても重要だと思っている。これもまた、確かな答えでないかもしれない。だが、自分にとってはこういったことを考えられただけでも、このFSは十分だったと思う。